

# 小林信彦 『生還』

夢か、妄想か、それともこれが現実なのか？



二年前の四月。八十四歳の小林信彦さんは自宅で脳梗塞を起こし、救急車で搬送されることになりました。「約一週間、生きるか死ぬかというところになりました。い。きわめて危険な場所と考えるべきだろう。」幻想小説のように紡がれる病中の夢、出来の悪いコントのような入院生活。リハビリが進むにつれ、明晰な意識で病院の人々を観察し、脳梗塞という病のおそろしさを考える。めでたく退院、しかし直後に骨折、再入院。「私は本当に治癒してゆくのだろうか？」エッセイの名手が自身の体験から人生百年時代の〈生と死〉を問い直す、まったく新しい文学的闘病記です。

装幀：平野甲賀

2019年3月15日発売

定価(本体2000円+税)

200ページ

**著者紹介 小林信彦** 昭和7年、東京生まれ。早稲田大学文学部英文学科卒業。翻訳推理小説雑誌編集長を経て作家になる。昭和48年、『日本の喜劇人』で芸術選奨文部大臣新人賞受賞。平成18年、『うらなり』で第54回菊池寛賞受賞。主な小説に『袋小路の休日』『決壊』『日本橋バビロン』『つなわたり』など。最新エッセイは『映画狂乱日記』（文春文庫）。

インタビュー等のお問い合わせは>>

文藝春秋 プロモーション部

TEL 03-3288-6142 mail: [pr@bunshun.co.jp](mailto:pr@bunshun.co.jp)